(C)河北新報社

福祉大 3季連続V

仙台六大学野球

春季リーグ最終節第1日は23日、仙台市の東北福祉大球場で東北福祉大—東北学院大、仙台大—東北大の各1回戦があり、福祉大が勝って3季連続79度目の優勝を決めた。仙台大は先勝した。

福祉大は一回、高岡の右前適時打と佐藤の中犠飛で2点を先取した。八回は高岡の右越え2点本塁打で突き放した。仙台大は三、四回にそれぞれ2得点し、主導権を握った。2投手の継投で東北大を無得点に抑えた。

最終節第2日の24日は、同球場で東北大—仙台大、学院大—福祉大の各2回戦が行われる。

福祉大は、6月8日から東京・神宮球場などで開かれる全日本大学選手権に出場する。

○…**学院大捕手阿部、初回の失点悔やむ** 学院大は0—5の九回、捕手阿部が適時打を放って一矢報いた。外角直球を芯で捉え、打球は二遊間を抜けて三走が生還。「昨年の（福祉大の）猪俣投手との対戦は3三振で屈辱だった。前に飛ばすことだけ考えた」と振り返った。

守備は反省が多い。5投手をリードし、被安打8で5失点。特に悔やむのは一回だ。相手の先頭多田羅と続く高岡に連打を許し、瞬く間に先制された。変化球を狙われ、「（先発）田口は要求通りに投げて打たれたので捕手の責任」と肩を落とす。

優勝は消えたが、福祉大から勝ち点を奪う可能性は残されている。「相手の逆を突くリードで、次は福祉大を2得点以内に抑えたい」と闘志を燃やしていた。

福祉大	打	安	点
(左)多田羅	5	3	0
(遊)高岡	5	3	4
(中)辻村	5	1	0
(一)小島	2	0	0
(右)佐藤	4	0	1
(指)金井	2	0	0
(三)中岡	3	0	0
走三	2	1	0
(二)向段	1	0	0
(捕)小山	3	0	0
振球伊藤	3	0	0
犠併残	0	0	0
6	8	2	5
30	8	2	5

学院大	打	安	点
(一)大久保	4	1	0
(遊)松下	4	1	0
(右)伊藤達	4	0	0
(左)伊藤和	4	4	0
(捕)阿部	4	0	1
走喜井	0	0	0
(指)鈴木	4	0	0
(中)片岡	3	0	0
(二)佐藤	3	1	0
(三)菅野	1	0	0
打三小野洋	1	0	0
振球犠併残			
7	0	1	0
5	3	2	6
32	6	1	

三 多田羅、松下
時 2時間15分

投猪	手回	打	安	責
田口	4	17	4	2
千葉	3	9	0	0
永井	⅔	5	3	2
内田	⅔	5	0	1
小林	⅔	4	1	0

仙台大	打	安	点
(指)吉井	4	1	0
(左)木沢	3	1	0
打中上	1	0	0
中村	1	0	0
(右)山下	4	0	2
(一)斎藤	3	1	0
(二)瀬川	4	3	0
(三)石川	4	3	0
(遊)広川	4	1	0
(中)新保	4	1	0
(捕)左今野悠	3	3	2
打井尻	1	0	0
捕今北	0	0	0
振小野寺	0	0	0
球犠併残			
2	3	0	1
4	33	7	4

東北大	打	安	点
(中)本郷	2	0	0
(遊)田村	2	0	0
(右)真下	4	2	0
(捕)浜岡	4	1	0
走平岡	4	1	0
(指)遠藤	0	0	0
打指木村	3	0	0
(一)稲葉	1	0	0
(左)美濃	3	0	0
打才治	3	0	0
(三)岩槻	0	0	0
打(三)関根	2	0	0
打三長崎	1	0	0
(二)斎藤	1	0	0
振真谷	3	1	0
球犠併残			
12	4	0	0
8	31	5	0

二 斎藤（仙）、今野、吉沢、悠本郷
真谷、今野悠、田村、暴越智
失 広川
時 2時間23分

投大	手回	打	安	責
藤城	7	26	4	0
井	2	9	1	0
越智	9	36	7	5

福祉大先制 快勝

福祉大—学院大1回戦（福祉大1勝）

福祉大	2	0	0	0	0	0	0	2	1	5
学院大	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

勝 猪俣5試合5勝
敗 田口5試合3勝1敗
本 高岡2号②（永井）

【評】福祉大が快勝した。一回、高岡の右前適時打や佐藤の中犠飛で2点先取。八回は高岡の右越え2点本塁打で突き放し、九回も高岡の適時打でダメ押しした。先発猪俣は1失点完投で5勝目。学院大は九回に1点を返したが、反撃が遅かった。

仙台大 零封勝ち

仙台大—東北大1回戦（仙台大1勝）

仙台大	0	0	0	2	2	0	0	0	1	5
東北大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

勝 大城6試合4勝1敗
敗 越智6試合2勝3敗

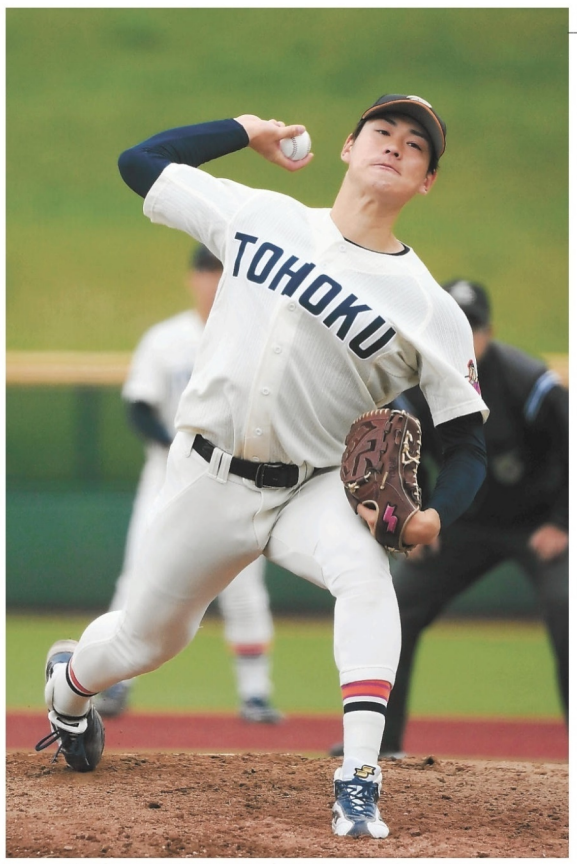
【評】仙台大が零封勝ち。三回に斎藤の左越え2点二塁打で先制。四回は今野悠の2点二塁打で差を広げ、九回は暴投でダメ押し点を奪った。投げては先発大城、藤井の継投で無得点に抑えた。東北大は打線が12三振と振るわなかった。

○…**少ない好機生かす** 仙台大は少ない好機を逃さなかった。東北大の好投手越智に対し、三者凡退が5回と苦しみながら、3番斎藤が2打点と活躍。「越智さんはカットボールがコースに決まる良い投手。いいところで一本打てた」と胸をなで下ろした。

三回は二、三塁に走者を置いて、4球目の浮いた直球を捉えた。打球は左翼手のグラブをはじいて2点打に。「ラッキーだった」と語る。

東京六大学では高橋煌稀投手（早大）ら仙台育英高時代のチームメートが活躍している。「自分も負けじと頑張りたい。3番としてもっと好機で打てるように修正する」と次戦を見据えた。

エース猪俣完投 頂点導く



学院大打線を1得点に抑え、完投勝利を挙げた福祉大の猪俣

「落ち着いて投げた」

要所での勝負強さ際立つ

エースが本領を発揮した。福祉大の3季連続優勝の立役者となったのは、無四球で1失点完投の猪俣。

「終始熱くならず、落ち着いて投げられた」。最後の打者を三振に仕留めると、マウンドに駆け寄った仲間と歓喜の輪の中で屈託なく笑った。

立ち上がりから冷静だった。一、二回に先頭の打者に安打を許すと、相手打線が速球に的を絞って「当てる打撃」を意識していると判断。ここから、あえて出力を抑えて裏をかいた。要所でカーブやフォークボールを織り交ぜる。三振や凡打の山を築き、八回まで三塁を踏ませなかった。

今季は桜井（現中日）、堀越（現西武）の二枚看板が抜け、先発陣の柱を担う。抑えを務めることもあった昨年は、得点させまいと力みや気負いがあったが、今は気持ちに余裕があるという。実績のある選手が多く残った野手陣は頼りになり、中継ぎ陣も信頼している。「頼もしい仲間たちと全員で戦っている」と話す。

最後まで球威が落ちないスタミナ、要所でギアを上げて抑える勝負強さは、今季際立った。2連覇が懸かる全日本選手権でも、思う存分持ち味を発揮する決意だ。

（山本武志）